

「熊本地震」

2016年04月18日

14日(木)夜、「熊本地震」と命名された地震が起こった。震度7という大地震であった。震度7は「阪神大震災」「新潟県中越大地震」「東日本大震災」以来のものである。翌朝のテレビで、家屋が倒壊した映像が放映された。以来、余震が続き、被害は増え続けている。16日(土)未明、マグニチュード7.3の地震が起こった。これが本震で、以前のは前震であると聞かされた。前震があって、本震が後に起こるなど、はじめて知った。本震は前震の十数倍のエネルギーを持っていると言うから、驚きである。42人もの方々が亡くなられた。殆どの人々が崩壊した家屋に押しつぶされて亡くなっている。生き埋めになり、まだ不明の方もいると報道されている。怪我で治療を受けている人は2,000人を超えている。家屋の崩壊も深刻で、耐震化してない建物は無残に倒れ、その倒れ方は尋常ではない。余震が続くので、怖くて家に入ることができない。避難者は12万人にも及び、屋外で、車の中で、夜を過ごしている。被災者の苦しみ、心労、疲労はいかばかりかと思う。食料、飲料水の不足が伝えられている。土砂崩れで家屋が埋まり、道路が寸断され、橋などが崩落している。観光名所の熊本城の屋根の瓦が落ち、見事な石垣も崩れている。震度5を越す地震が14回もあり、余震は400回を超え、いつ収まるのだろうか。船に乗っているかのように、地面が揺れているというから、さぞ、恐ろしいことであろう。被害は増え続けることは必定である。人間は地震に対し全く無力で、ただ鎮静していくのを待つだけである。

「熊本地震」は活断層が起こした直下型地震で、日本列島には、活断層が2,000本以上あり、まだ発見されていない活断層もあるという。今回の地震のような地震がいつ、どこで起こっても不思議ではない。「熊本地震」は九州全域に大小の地震をもたらした。

私は大分県杵築市出身なので、母教会に電話した。宮崎県延岡市の教会にもいたので、教会の知人にも電話した。双方とも、無事だと聞いて安心した。熊本には親しい友人はいないが、家族がいるという人にお見舞いの電話をしたところ、無事だが屋外で寝泊まりしているという。事故が起こった時、やはり友人、知人の安否が気にかかる。

今回の「熊本地震」で、停止中の長崎の「玄海原発」に異常はない、現在、唯一稼働している鹿児島県の「川内原発」も異常がないので、停止しないとのことであった。広河隆一氏ら6人の文化人が九州電力に「即時停止」を要請している。「熊本地震」を起こした活断層は大分県側の活断層に影響を与え、地震を頻繁に誘発している。この断層は「中央構造線」という一本の断層につながっており、熊本、大分、四国、奈良、そして関東にまで及んでいる。地震学者の中には「波及の可能性」を説く人もいる。愛媛には「伊方原発」がある。原発反対運動をしている友人から、早速「伊方原発」が危ないというメールが来た。地震列島の日本は地震を避けられない。原発を作らないというのが常識ではないか。

「熊本地震」を教訓にして、反原発の声と運動を大きく展開したいと、真底思わされた。

外国人たちは、日本人は大地震に遭遇しても、暴動化することなく冷静に対処している姿に敬服しているらしい。これは、誇るべきことであろう。余震が鎮静化した後、復旧までに大きな負担と時間がかかる。国民が心を合わせ、力を合わせていきたいと思う。政府は「熊本地震」を契機に国民からの評価を得ようとする策に出るであろう。真に被災者の痛みに沿った支援、復旧を期待したい。また関東直下型地震、南海トラフ地震が起こると言われている。安全を保障する政策を実行するように見定めることが大切である。